

オレの家は金持ちだ
悪さしたって
金で何でも解決してきた

オレのママも
村の若い男達を
金使って遊びまくっている

村のみんなそんな
オレら親子を嫌っていた
気にしてないけどな

「海はいいわね
ほら
パラソル用意しなさい」

「奥様
向こうに荷物を置いていきますので
今から取ってまいります」

「何やっているのよ
暑いのに
早く持ってきてきなさい」

「ちょっとこの皮みたいにな
るんでいるんじゃないの？」

「す…すいません！」

日常

最近のママは
近所に住む〇〇がお気に入りで
よく部屋に連れ込んでいます

今日も〇〇を連れて来た

〇〇
今夜は街の宿に泊まりなさい

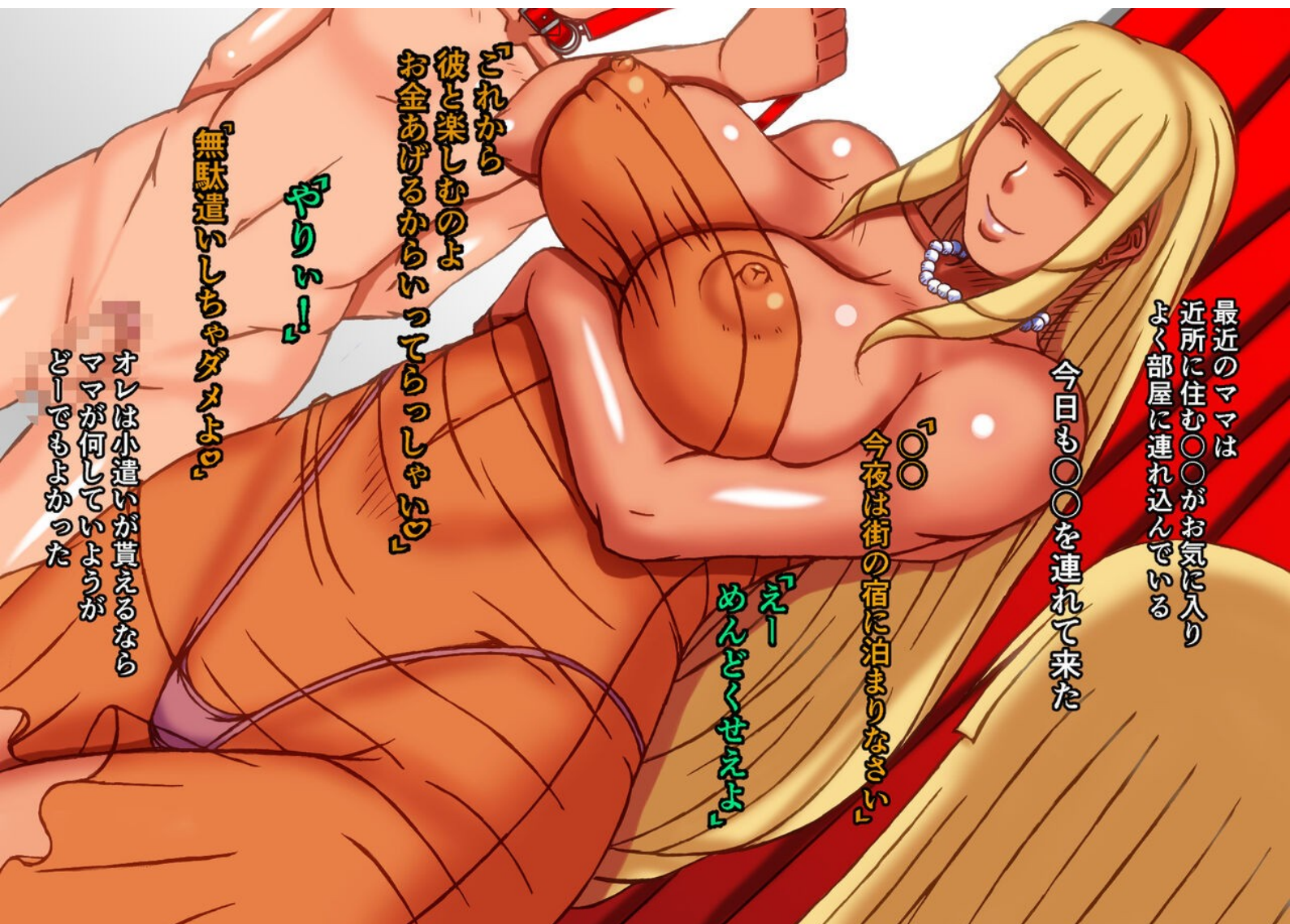
えー
めんどくせえよ

これから
彼と楽しむのよ
お金あげるからいってらっしゃい

やっ

無駄遣いしちゃダメよ

オレは小遣いが貰えるなら
ママが何していいようが
どーでもよかった





ふふふ…♡

「今日は私がしてあげるから
あなたは何もせず寝っ転がっていなさい♡」

「は…はい」

「ほら気持ちいいわよね？」

「うあ！
お…奥様！」

「なによ
私の足が嫌だというの？」

「ち…違います…
そ…そんなに強く踏みつけないでくだ…
うう…！」

「なら問題ないわね
固くなってきてるわよw」

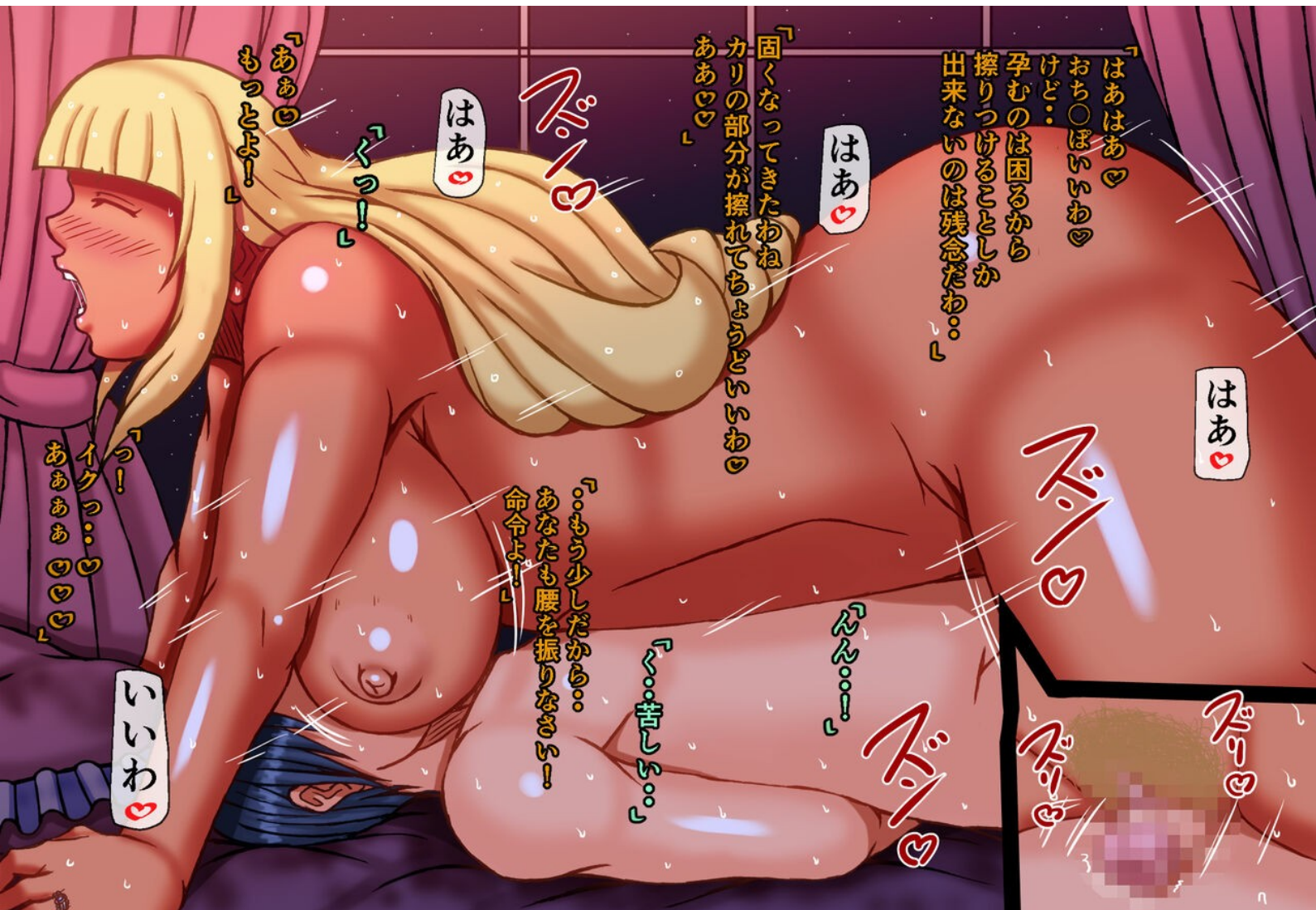
「ああ！」

フッ♡

フッ♡

フッ♡







ビーン

「はあはあ」

はー♡

「よかったわ♡
でもまだ夜は長いわよ♡」

「今度はあなたが上になって♡
間違っても中には
入れないように」

はー♡

ビーン

「は・は・は」

はー♡

ビーン

ビーン!

ビーン!

オレは昼頃家に帰って来たんだけど
ママと○○はまだ部屋にいた
あいつのどこがいいんだ……?

続

ある日の夜
今日も遊び疲れたから
さっさとベッドに入った

しばらくすると何者かが
部屋に入ってきてオレを鈍器の
ようなもので殴り
縛りあげ目隠しされた

気づいた時はオレは
馬小屋に寝かされていた

仕返し

そこで見た光景は信じられなかった

ママは目隠しをし手首を縛られ
○○のち○○ぽをしゃぶっていた

んん♡

ん♡

んん♡

ジッポ♡

ジッポ♡

ジッポ♡

「やっと起きたか△△

おい

おばさん！

もつと上手くしゃぶれよ」

ん♡

「ごめんふあい」

ママは家のプールに入っている時に
拉致られたのか水着姿だった

ん♡

「おまえら親子前々から
気に入らなかつたんだ
同じ目にあわせてやる」

ジボ♡

ジボ♡

ババア

人にやらせてるくせに
自分でやるのは下手くそだな」

ん♡

「...」

ジボ♡

そんなこと言われても
ママは○○に奉仕していた

うう…!!

ぐぐっ!

しばらくすると
○○は身震いをし
しゃぶって出るママの口に出した

急ぎだったので
ママは離れようとしたが
強引に喉奥までチ○コ突っ込まれ
たっぷり出されていた

ふー♡

ふー♡

ふー♡

フッ

んんっ!

ピリン

ピリン

いつも僕達をオモチャにして
無理やり出させた
お婆さんの好きなザーメンだぞ

「ほらオバサンの好きな○○こ
いれてやるよ」

「やだ：
ちよつとやめなさい！」

「△△
お前のママ
妊娠が怖くて
マンズリまでしかさせなかつたんだぞ
男遊びしてるくせにw」

「僕初めてS○Xするから
中に出しちゃうかもね
孕んだらゴメンなw」

そう言っ
て
○○はわざわざオレの目の前に来て
見せつけるようにママのアソコにち○○こを
挿入した

ん
ん
ん

嫌あ！
抜きなさい！

「やばい入れただけで
出ちやいそう…」

ママのアソコはそんなに気持ちいいのか
○○はイクのを我慢して、しばらく動かなかった

「ほんと
やめなさい！」

あん♡

アッ♡

アッ♡

「うるさいオバサンだな
犯しまくってやる！
○○見てろよ」

はあ♡

○○は上手く腰を振れなくて
何度かアソコから抜けたりしていたが
無理やり入れてママを犯した

はあ♡

ズン♡

ズン♡

〇〇は激しく腰を振ったけど
1分も経たずにイッてた

「うう…!
くそ…」

「あ…ちょ…やだ!
出てるじゃない!
早く抜いでえ!

はあ♡

「はあはあ
やったぞ…」

「おい△△
おまえ我慢汁出して勃起してるじゃん
ママが犯されているの見て興奮してるのか?
変態だなW」

はあ♡

なぜか体が反応してしまった…

はあ♡

ビュッ

ブッ!
ブッ!

ビュッ

ビュッ

ズチュ♡

ズチュ♡

パン♡

その後長い間

〇〇は
色々と体位を変えながら
ママを犯し続けた…

「はああ♡

もうダメえ♡

おかしくなっちゃう♡♡」

イク♡

イクッちやうう♡♡

ダメエ♡

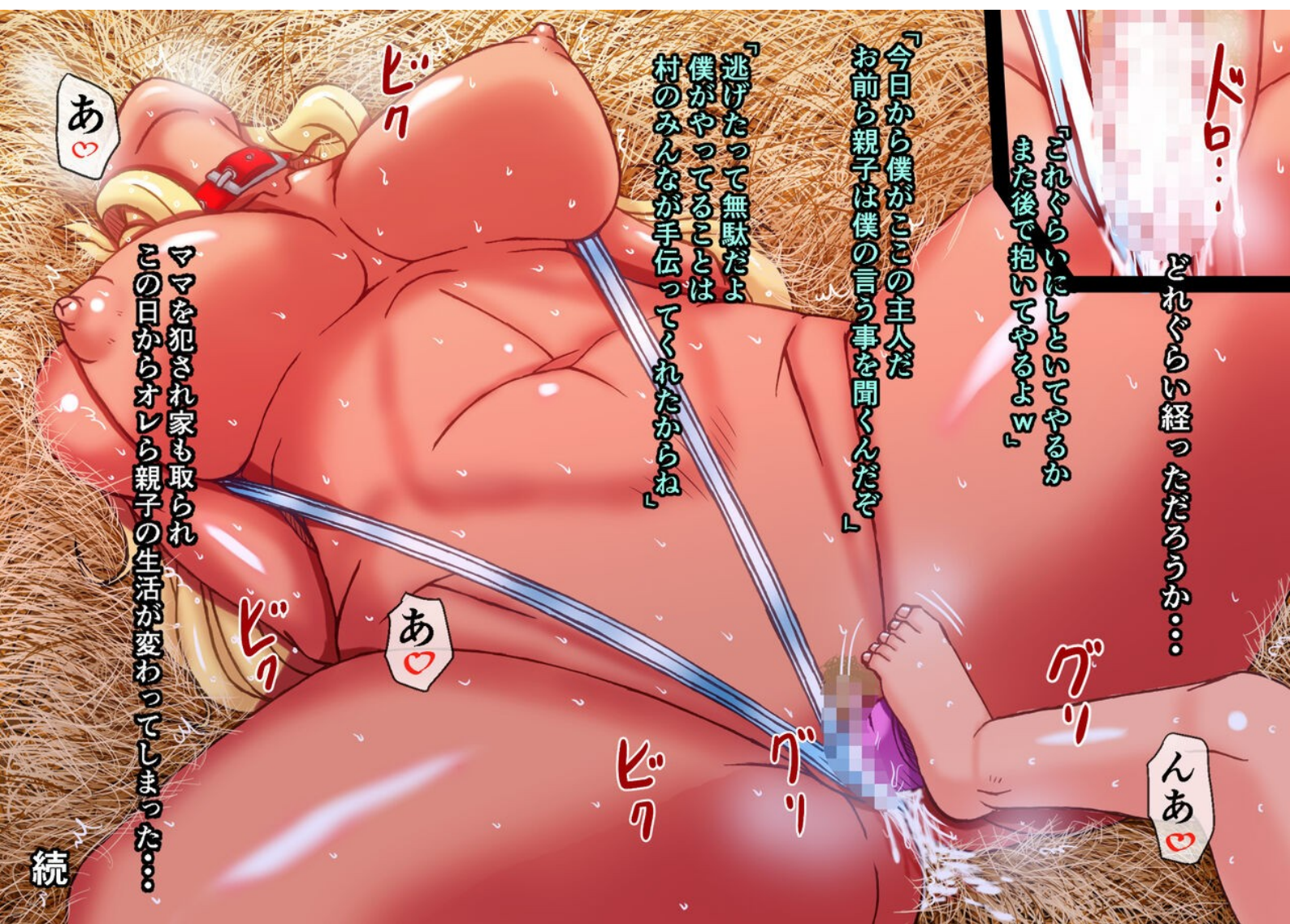
「オバサンそんなに気持ちイイの？
いい声で鳴くじゃん♡」

んああ♡

あ♡

パン♡

あんなに嫌がっていたママなのに
SOXしていく内に
次第に喘ぎ声に変わっていった



どれぐらい経っただろうか…

「これぐらいにしないとやるか
また後で抱いてやるよw」

「今日から僕がこの主人だ
お前ら親子は僕の言う事を聞くんだぞ」

「逃げたって無駄だよ
僕がやってることは
村のみんなが手伝ってくれたからね」

ママを犯され家も取られ
この日からオレら親子の生活が変わってしまった…

続

〇〇に仕返しされたオレとママは
全裸のまま〇〇と同じような目にあわされた

「おじさん

一晚このおばさん貸すよ？

やりたくない？

安くするよ」

「いいねえ

前々からやりてえと思ってたんだ
いつも露出の高い格好しやがつて
用心棒雇ってたから手出せなかったけどよ」

「じゃあオレはこのぽっちゃりの息子を貰おうか」

「毎度」

「部屋連れて行く前に

一発抜くか

おじさんのチ〇コによがる
お前のママの姿見とけよ」

奴隷の日々

んん♡

「そんなに嫌がるなよ
奥さん」

ちゅ♡

くっ！

びゅ

びゅ

「ほらもっと足を開け
息子に見せつけてやるんだよ」

くっ♡

グチュ♡

ちゅ♡

ママは顔を背けていたけど
おっさんは強引に引き寄せ
ママにキスをした

んぐ♡

キスで満足したおっさんは
次にママの体を弄り始めた

グチュ♡

グチュ♡

「ボウズ
お前のママ
おじさんのチン○ポ欲しくて
こんなにマ○汁垂らしているぞ
ほんといやらしいママさんだ」

「はあはあ
たまんねえな
奥さんの体を好きにできるなんて」

あふ♡

びゅ

んふ♡

びゅ

ママはおっさんにいいように使われていた

「やばい
マ○コがオレのチ○ポに
吸い付いてやがるw」

ズン♡

んあ♡

おっさんは足を持ち上げオレに
結合部を見せつけるように
ママを犯していた

あはあ♡

「はあはあ
まずは一発目だ
受け止めるよ！」

「だめえ！」

「ボウズ
お前のママ締りが良くて
最高だw」

「ぬ…抜いて！」

ズン♡

あん♡

ズン♡

発射寸前になると
おっさんの腰の動きが早くなり
そしてママの中で果てた…

イッた後もしばらく繋がっていて
ゆっくりと抜き差しをしザー○メンを
奥まで流し込んでいた

イク

許して

壁が薄いのかしばらくすると
肉と肉のぶつかる音とそれに合わせて
喘ぎ声が聞こえてきた

ああ

「さっきより反応がいいじゃないか
やっぱ二人きりじゃないとな」

おっさんは
オレの前でママを抱いだ後
ぐったりしたママを隣の部屋に連れて行き
続きを始めた

「ちが
あああ」

はん

ああああ♡♡♡

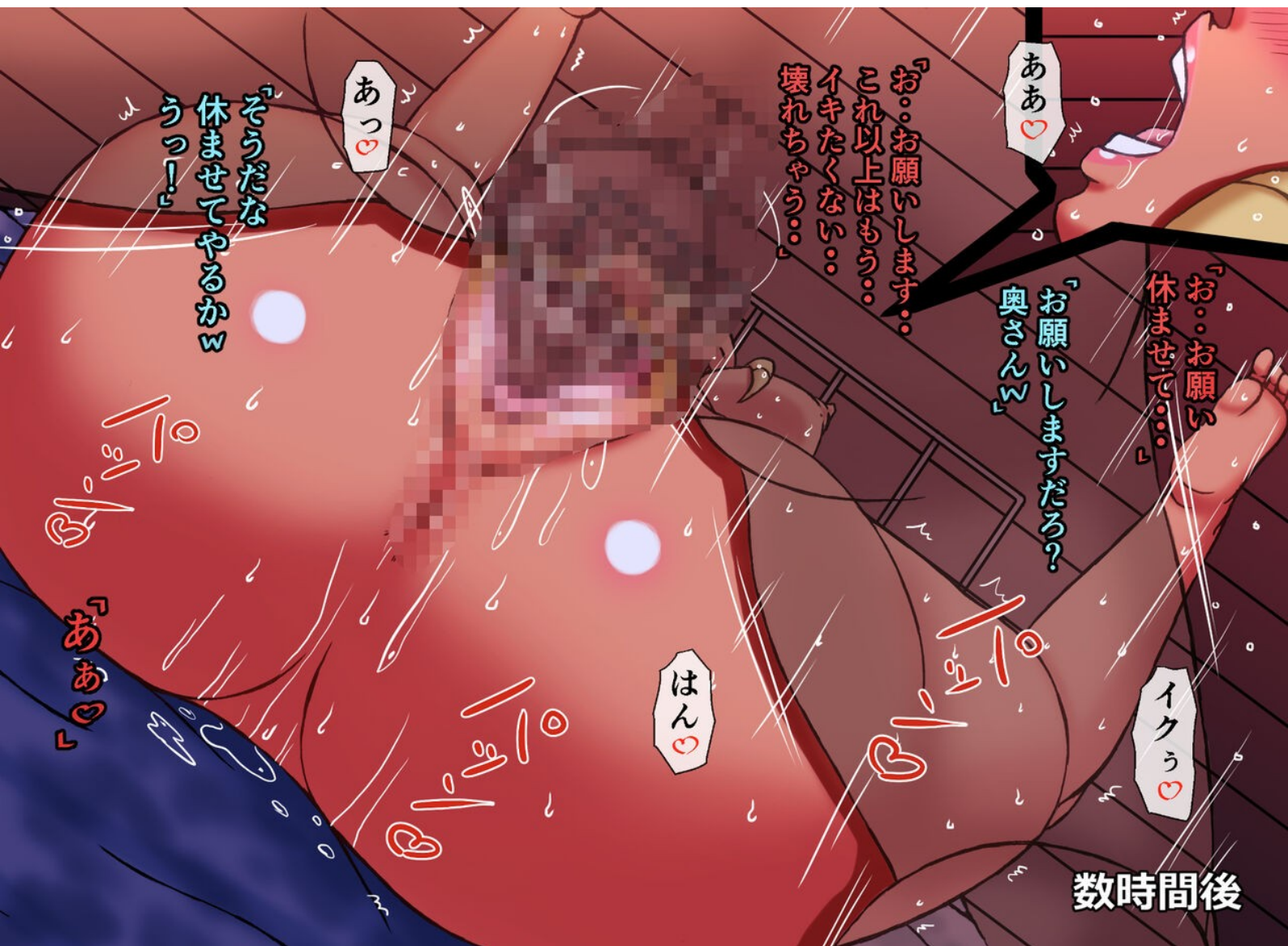
「若いのより使い込まれたち○ぽの方がいいだろ?」

「やだ:これ以上激しくしなすぞ。」

「おらいケよ!奥さん!」

「んああ♡♡♡らめえ♡♡♡」

ママの喘ぎ声が一段と大きくなりおっさんに激しく攻められているのがわかった:



ああ♡

「お：お願いします…
これ以上はもう…
イキたくない…
壊れちゃう…」

「お願いしますだろ？
奥さん♡」

「お：お願い
休ませて…」

イク♡

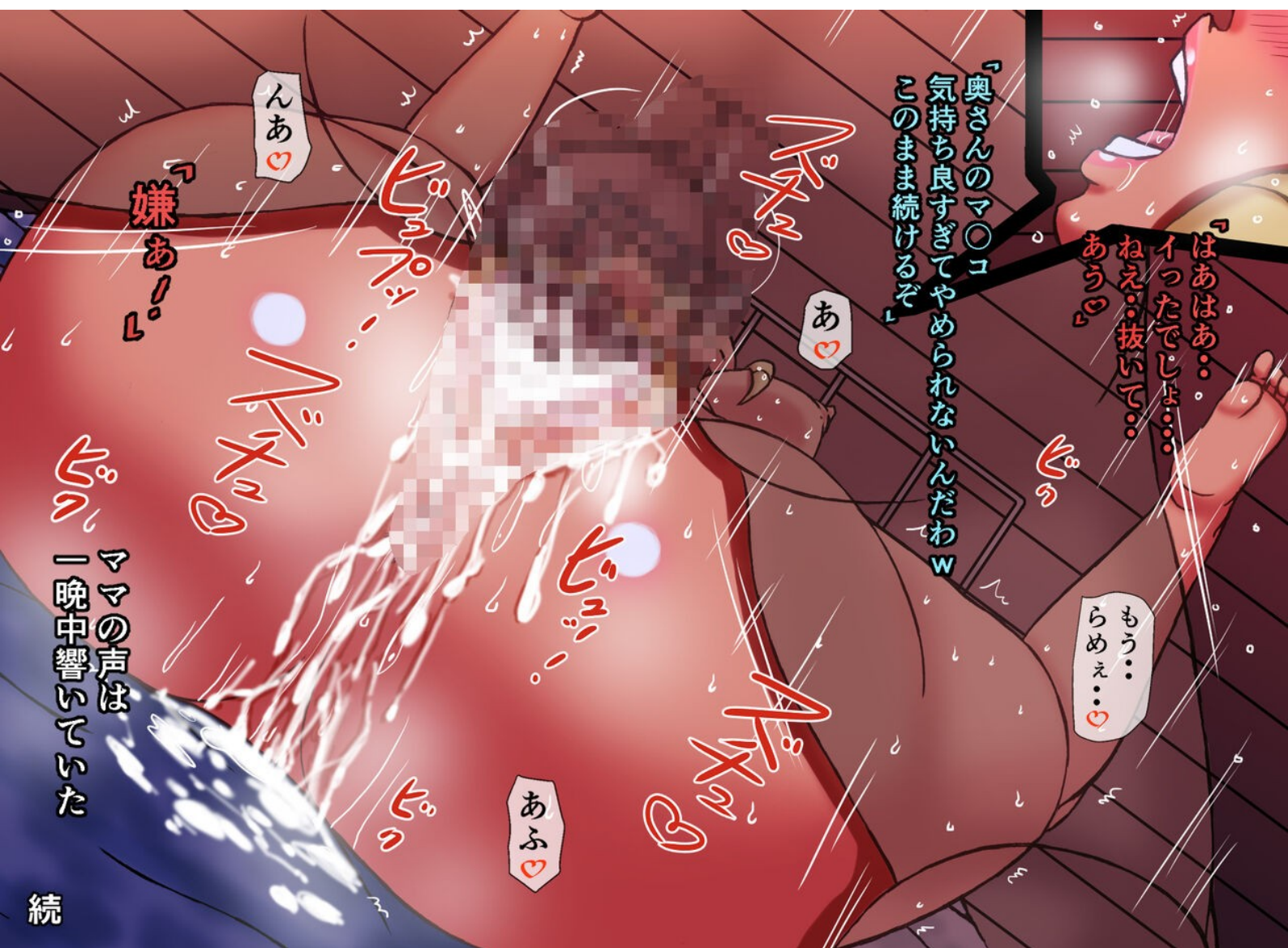
はん♡

あつ♡

「そうだな
休ませてやるかw
うっ！」

「ああ♡」

数時間後



「奥さんのマ○コ
気持ち良すぎてやめられないんだわ
このまま続けるぞ」

「はあはあ……
イッたでじよ……
ねえ、抜いて……
あう」

もう……
らめえ……

あ

あふ

んあ

嫌あ！

ママの声は
一晩中響いていた

続

〇〇の奴隷になってから
オレは村の連中に
色々な仕事をやらされ
こき使われている

一方ママは
毎晩〇〇の性欲処理を
させられていた

ある日
今日も仕事に行く前に
家にいつもいるママがいないことに
気づいた

「はあはあ
たまんねー」

「こんな大きいの
触ってみたかったんだ」

「お前のママは
友達の家に連れて行っちゃったよ
2・3日で戻ってくる」

「みんな童貞でやらせてくれって
頼むから今頃は
やりまくってんじゃないか？」

「ご主人様
ママがいないんですけど…」

「待って！
せめて順番に…」

「早くやろうぜ」

ママの用事

三日後

ママを連れて帰るのに
同行させられた

ママのいる古い家に入ると
ザ○メンのイカ臭い匂いが
充滿していた

隣の部屋に行くと
ザ○メンだらけの中
ママは複数の若い男達に犯されていた

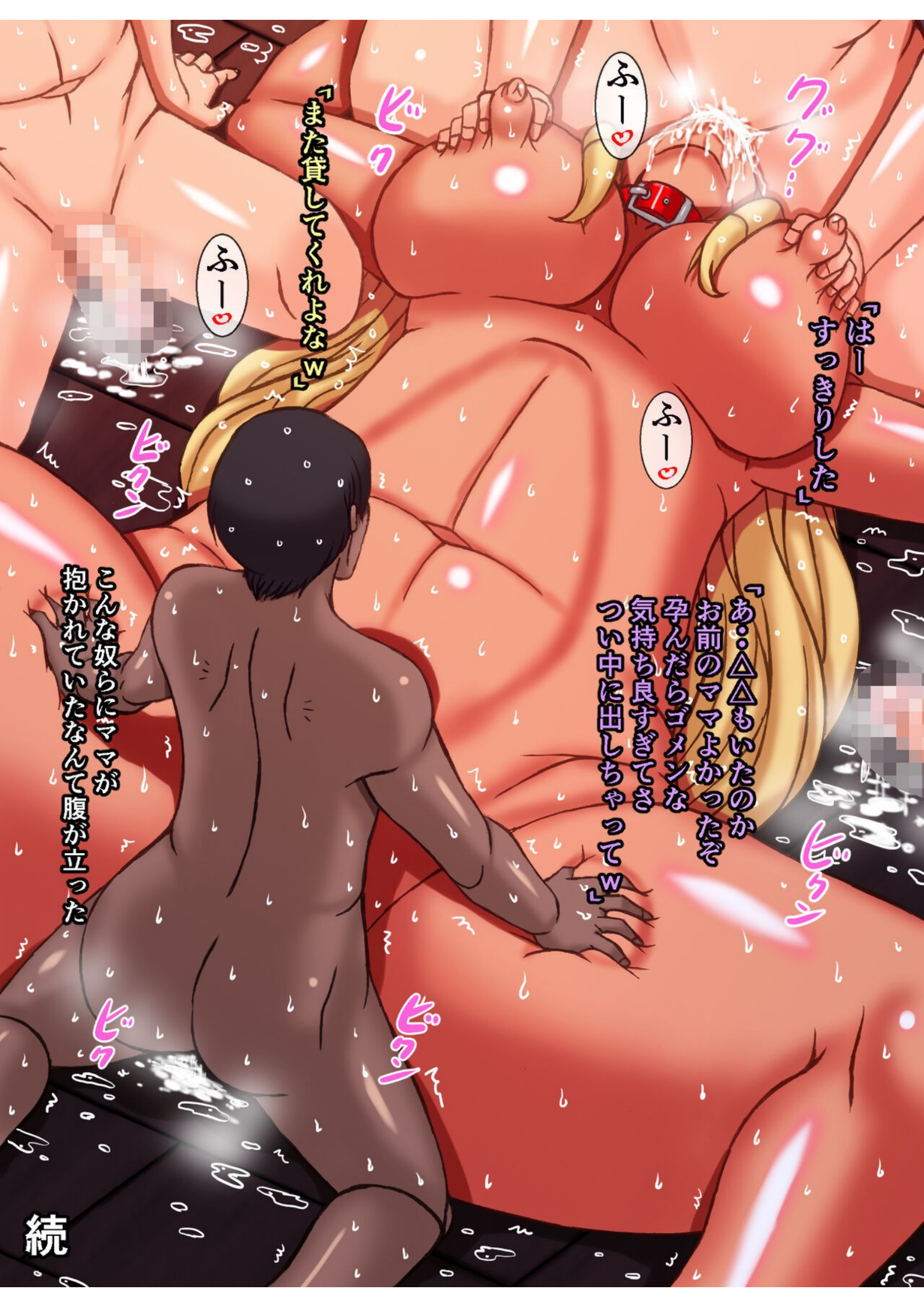
オバサンを返してもらいにきたよ

えーもうかよ
じゃあこれで終わりにするか
出すぞー!

んんん

んー

んぐ



「はー
すっきりした」

ふー♡

「あ：△△もいたのか
お前のママよかったぞ
孕んだらゴメンな
気持ち良すぎてさ
つい中に出しちゃってw」

「また貸してくれよなw」

ふー♡

こんな奴らにママが
抱かれていたなんて腹が立った

続

奴隷になって半年経った
ある日の夜

オレは〇〇と呼ばれ
部屋に向かった

部屋に入ると

ママ達がS-Xしている最中だった

ママはもうすっかり
〇〇の女になっている

〇〇がやりたくなったなら
場所や時間なんて関係なくやる
これがほぼ毎日…

「ご主人様
なんの御用ですか？」

ああ♡

「ちょっと待ち
もう少しだから…」

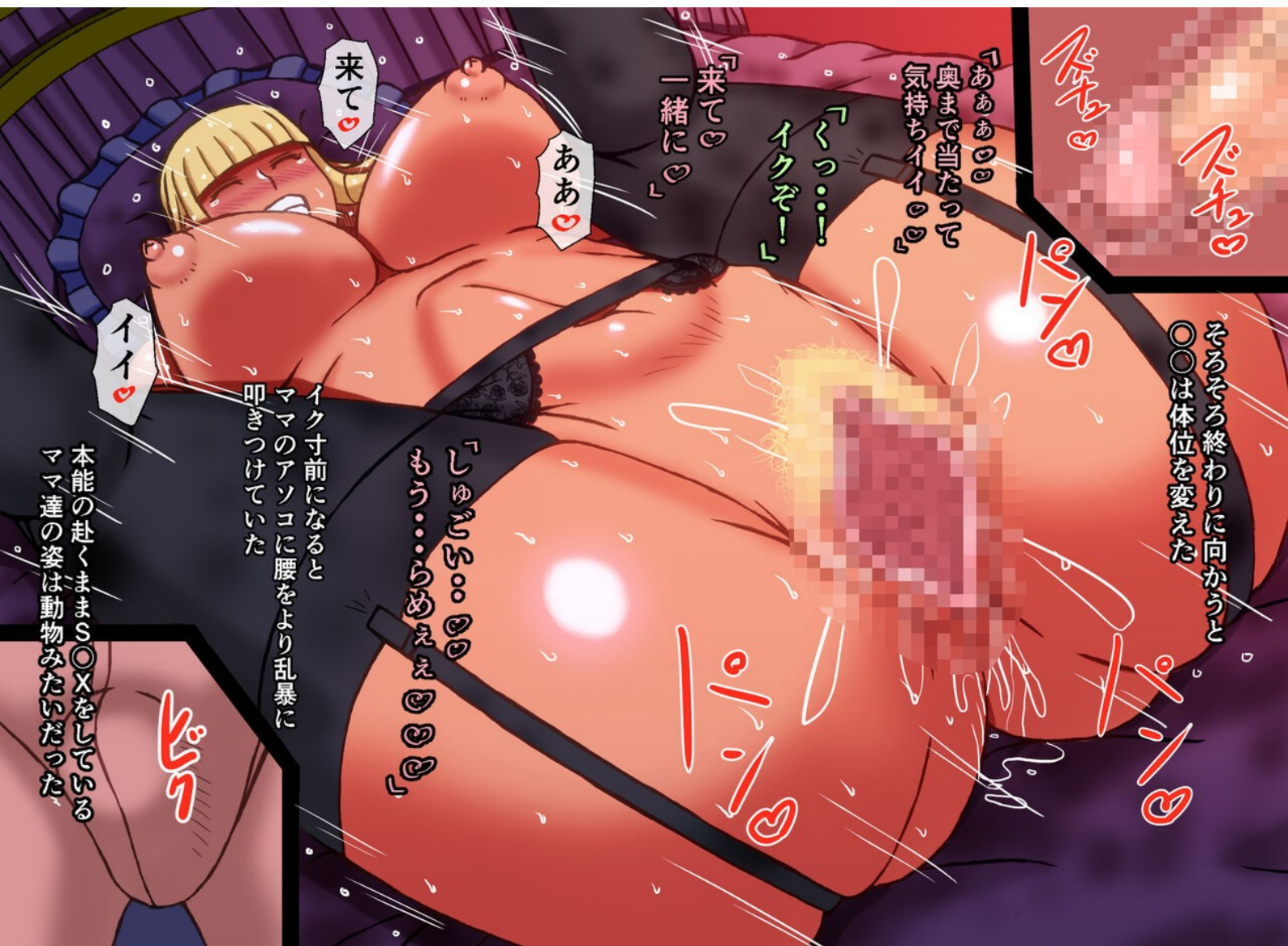
「え？
イっちゃうの？
だったら正常位でお願い♡」

もっと♡

あん♡

「ご主人様の顔見ながら
イキたいの♡」

告白





事が終わり

「話がまだだったね
ほら言ってやりなよ」

「はあ♡」

「ええ♡」

「ママご主人様の赤ちゃん
出来ちゃったわ♡」

「はあ♡」

「え？」

「それでね
結婚するの♡
だからパパの形見の指輪
邪魔になったから捨てちゃったわ♡」

「はあ♡」

「え？」
「え？」

色々聞かされあまりのことに
オレは頭が回らなかった…





はあ♡

はあ♡

『そういうことだよw
僕が新しいパパだ
僕は君が嫌いだから
出ってもらおうか』

『たぐさん愛してね
パプ』

『またやりたくなっちゃったよw』

『ごめんね♡
ママはお腹の赤ちゃんと
三人で暮らすわ』

はあ♡

『オレがまさかママに
捨てられるとは思わなかった…』

終























